

申し込み方法 ※講座ごとに申し込み方法が異なります。

◆事前申し込み

各講座1ヶ月前から前日までの間に、各大学指定の方法にて、①氏名②住所③連絡がつく電話番号④メールアドレスなど必要事項を、各大学へご連絡下さい。

Email・Fax・ハガキ受付の場合は各大学から返信をさせていただきます。ご不明な点は各主催大学へお願いいたします。

◆当日受付

30分前より来場可能、20分前より開場、受付開始。先着順。定員に達した場合は入場のお断り、または立ち見となる場合がございます。ご了承下さい。

※お申込みにより得た個人情報は、お申込み頂いた各講座主催大学が「よこはま大学開港塾事業」で使用する他に、後日、講座情報等をお送りする際に使用する場合があります。

●よこはま大学開港塾に参加された皆様のご意見・ご感想をお寄せ下さい。(送り先Email) ts-kaikouj@city.yokohama.jp

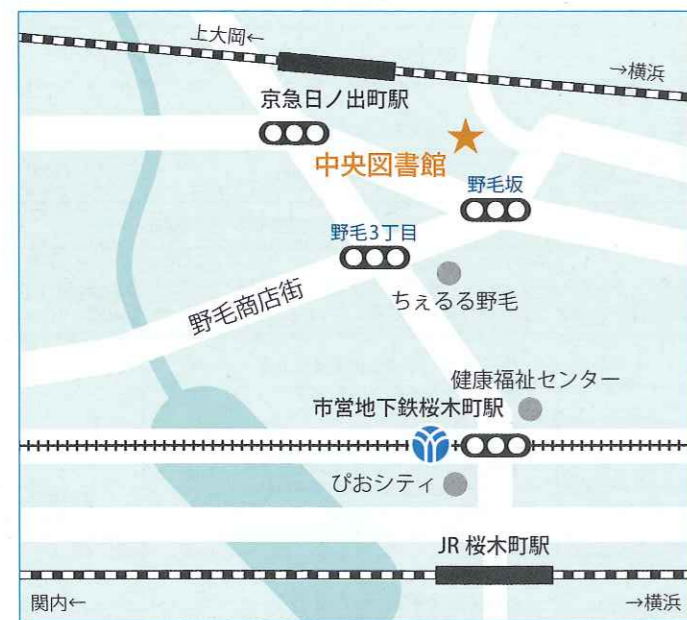
個人情報に十分留意した上で、一部をよこはま大学開港塾HP (<http://www.city.yokohama.jp/me/keiei/daigaku/partnership/>)へ掲載させていただきます。

●各講座の内容は予告なく変更になる可能性があります。

会場情報 ※会場へのご来場は公共交通機関をご利用下さい。

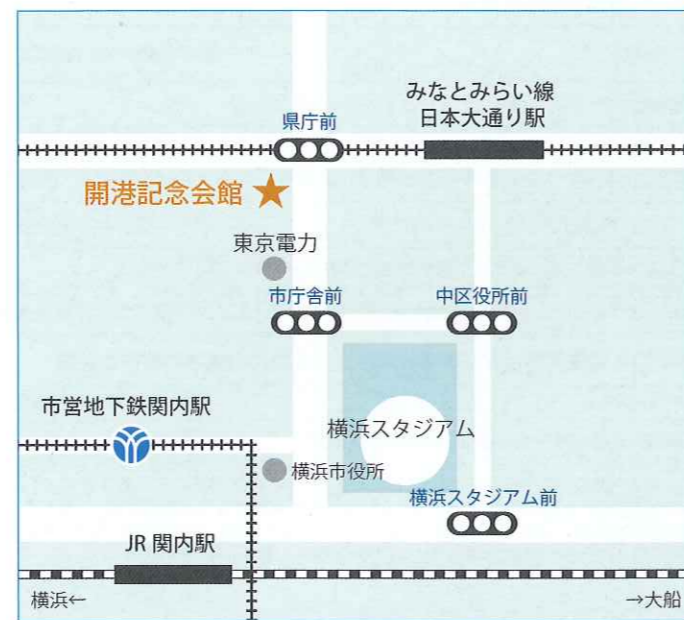
横浜市中央図書館

- ・京浜急行日ノ出町駅から徒歩5分
- ・J R・市営地下鉄線桜木町駅から徒歩10分



横浜市開港記念会館

- ・J R 関内駅または市営地下鉄関内駅から徒歩10分
- ・みなとみらい線日本大通り駅から徒歩1分



主催: 横浜市立大学、東京都市大学、神奈川大学、関東学院大学、星槎大学、LEC東京リーガルマインド大学、桐蔭横浜大学、明治学院大学、横浜商科大学、SBI大学院大学、カリタス女子短期大学、鶴見大学、横浜薬科大学、昭和大学、八洲学園大学、横浜国立大学 (開催順)

共催: 大学・都市パートナーシップ協議会(事務局:横浜市都市経営局大学調整課)、横浜市

協力: 横浜市中央図書館

デザイン: 横浜美術大学ビジュアルデザイン領域助手 小谷由衣・大松伸洋

受講者をカモメで表現しました。よく見るとカモメの中には講師カモメがいます。
シンプルなデザインに、ちょっとした遊び心を加えました。
横浜は大きな港があり、外国の文化が交じり合う国際性豊かな都市なので、
西欧のグラフィックポスターをイメージし、制作しました。



●よこはま大学開港塾全般に関するお問い合わせ (電話)045-671-4273 (Email)ts-kaikouj@city.yokohama.jp

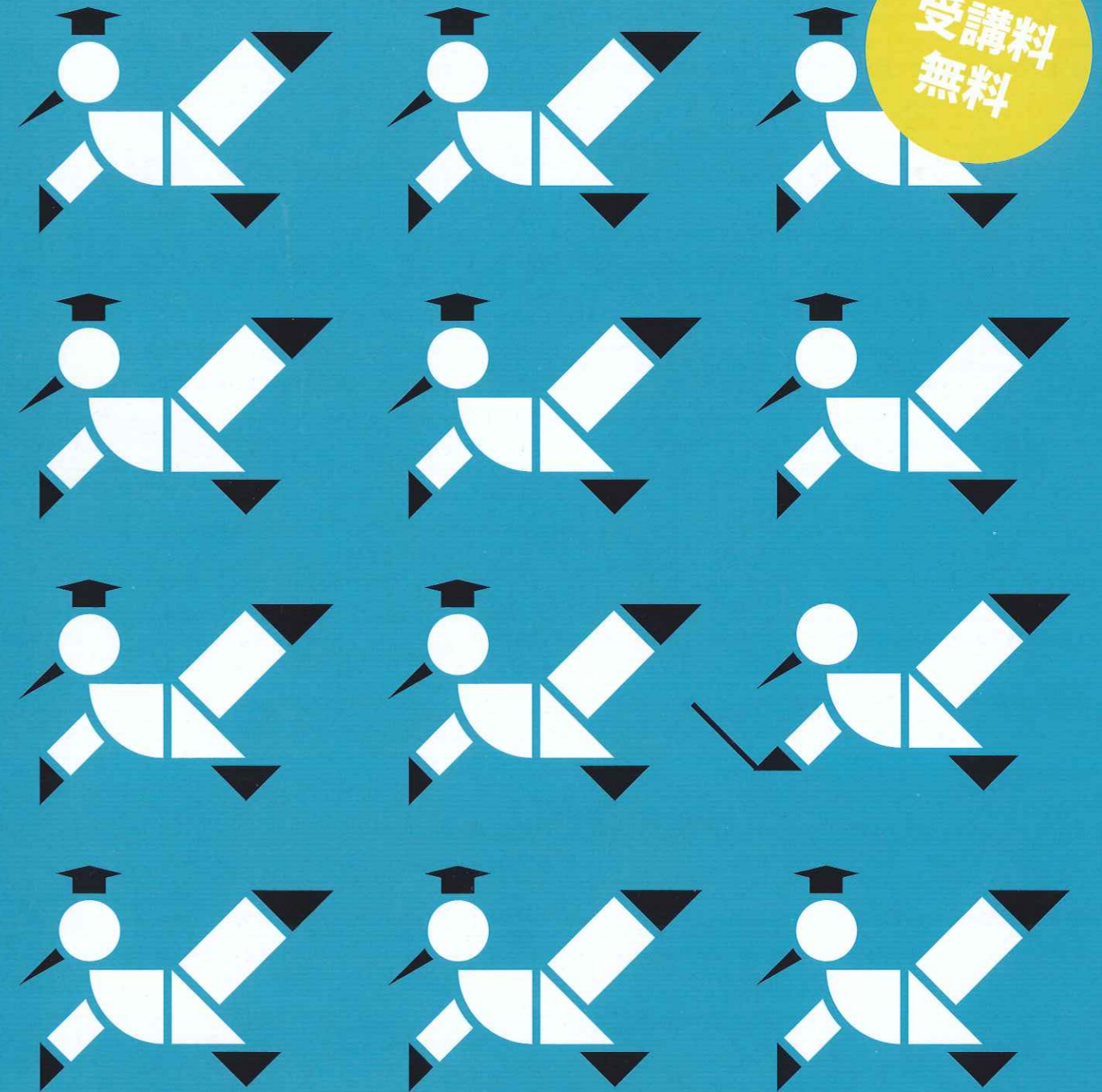
UNIVER+CITY YOKOHAMA

よこはま大学開港塾 2010 ~横浜から拓く知の未来~

2010年8月8日(日)~2010年12月11日(土)

開港・開国の大きな波を乗り越えた横浜は、Univer+City Yokohama(21世紀型大学都市ヨコハマ)を目指しています。横浜には知のパートナーである30の大学があり、市民と一緒に、都市の今を見つめ直し未来について考え、様々な課題解決に取り組んでいます。よこはま大学開港塾 2010は、16大学が連携し、未来を切り拓く市民一人ひとりの英知をサポートする19の講座です。

受講料
無料



A：APEC 横浜開催関連 環太平洋地域を考える!



【A-1】アカデミック・コンソーシアム・国際シンポジウム『持続可能な都市の創造をめざして―大学の新たな役割―』	200名	主催：横浜市立大学	当日受付
8月8日(日) 13:00-18:00	会場：パシフィコ横浜(横浜市西区みなとみらい1-1-1)		学術企画課 国際化推進担当 (電話)045-787-2423
<p><講演>大島 賢三(JICA 副理事長・前国連日本政府代表部大使)、鈴木 博明(世界銀行金融経済都市局首席都市専門官)、ファシリテーター:上村 雄彦(横浜市立大学国際総合科学部准教授)他(詳細は後日よこはま大学開港塾HPにてお知らせします。)</p>			

【A-2】グローバル化時代の東アジア	400名	主催：神奈川大学	当日受付
10月2日(土) 13:30-17:00	会場：神奈川大学 横浜キャンパス・セレストホール(横浜市神奈川区六角橋3-27-1)		経済貿易研究所 (電話)045-481-5661 (内線)4715・4716
<p><基調講演>『躍動する東アジア―もうひとつの共同体へ』進藤 榮一(筑波大学名誉教授・国際アジア共同学会代表)<パネルディスカッション> 白山 正樹(丸全昭和運輸株式会社海外事業部部长)／堀越 誠司(株式会社アルバック営業企画室室長)／山本 博史(神奈川大学経済学部教授)／柳澤 和也(神奈川大学准教授)</p> <p>東アジア諸国は経済の相互依存関係を強めてきました。通貨スワップ制度の拡充やアジア債券市場の育成は、現在東アジア諸国共通の課題となっており、ASEAN+3 首脳会議や東アジア首脳会議がすでに定例化されています。東アジア諸国の相互依存関係は、今後より一層強まっていくことは必定です。このシンポジウムでは、こうした潮流に乗っている東アジアの行方をビジネスと学術という2つの見地から展望します。</p>			

【A-3】東アジア共同体の可能性と問題点―横浜からの発信―	400名	主催：関東学院大学	当日受付
10月9日(土) 14:00-16:00	会場：横浜市開港記念会館		学長事務室(電話)045-786-7005
<p><パネルディスカッション> 榊原 英資(青山学院大学教授)／原 洋之介(政策研究大学院大学教授)／ベマ・ギャルボ(桐蔭横浜大学教授)／小林 照夫(関東学院大学教授)(司会) 富岡 幸一郎(関東学院大学教授)</p> <p>グローバル時代の中で、各国は経済・資源・環境・文化等の交流を深め、自由貿易の推進とともに経済ブロックを形成しています。東アジアにおいても、経済を軸とした共同体構想が言われています。宗教や文化を異にする東アジアの地域において、どのような共同体の可能性があるのか。中国とインドという巨大な市場と勢力(力学)の中で、議論すべき問題点は多い。APECが開催される横浜から多様な議論をシンポジウムで発信します。</p>			

【A-4】環太平洋地域の環境問題から一人と自然との持続可能な共生を考える―	500名	主催：星槎大学	事前申込(電話・Email・HP) 空き状況により当日受付可
10月11日(月・祝) 第1部10:00-12:00 第2部13:00-16:00	会場：横浜市教育文化ホール(横浜市中区万代町1-1)		横浜情報処理センター (電話)045-979-0261 (Email) apec@seisa.ac.jp (HP) http://www.seisa.ac.jp/apec.html
<p><シンポジウム> 加藤 登紀子(歌手・鴨川自然王国代表)／寺脇 研(元文部科学省)／坪内 俊憲(ボルネオ自然トラストCOO) 他</p> <p>人と自然との持続可能な共生を実現するためには、政治、経済、教育その他、社会全体で取り組み、私たち一人ひとりがその当事者として行動を起こさなければなりません。第一部では、国際シンポジウムとして、ボルネオ、ツバルなどと双方向TV会議で接続し、現地からの報告を中心に行うほか、第二部では各方面からの参加者により「今日からできる具体的行動」について熱く議論していきます。</p>			

【A-5】APEC横浜の開催を機に、環太平洋地域を多面的な見地から直見そう!!	130名	主催：LEC東京リーガルマインド大学	当日受付
10月16日(土) 13:00-16:00	会場：横浜市中心図書館 地下ホール		総務部(電話)03-3222-5159 (Email) soumu1@lec.ac.jp

<p><講演>『黒船の来航 - 日本の音楽の変遷』藤澤 慶巳(LEC東京リーガルマインド大学教授)</p> <p>黒船が来航した当時、初めて日本人が聞いた音楽とはどんな音楽だったのか?音楽を通して日本の音楽の変遷を学んでいきます。</p> <p>『APECの政治経済と地理』隈元 泰弘(LEC東京リーガルマインド大学教授)</p> <p>APECは世界人口の4割、GDPの5割を占める21の国と地域が参加する世界最大の地域協力であり、経済・政治・地理的視点から大いに学びます。</p> <p>『環太平洋地域における環境・エネルギー政策の現状と国際協力』田中 毅弘(LEC東京リーガルマインド大学教授)</p> <p>地球温暖化が進む中、我が国のみならず、各国とも1国だけで、環境・エネルギー政策を立案、実行することは、もはや不可能です。本講演では、環太平洋地域に着目した環境・エネルギー政策の現状と国際協力の今後のあり方について概説します。</p>			
--	--	--	--

【A-6】APECとインド、そして日本の役割	130名	主催：桐蔭横浜大学	事前申込(電話・Email) 空き状況により当日受付可
10月23日(土) 13:30-16:00	会場：横浜市中心図書館 地下ホール		学長室(電話)045-974-5098 (Email) tu-gaku@cc.toin.ac.jp

<p><基調講演> 榎 泰邦(前在インド日本国大使・創価大学客員教授)</p> <p><パネルディスカッション> アフターブ・セット(元駐日インド大使)／福永 正明(岐阜女子大学南アジア研究センター客員教授)／スピンディリニー・カクチャー(インド人女性ジャーナリスト)／木内 みどり(女優／アジアの人権や福祉活動に貢献)／ベマ・ギャルボ(桐蔭横浜大学教授)</p> <p>APECは、アジア太平洋という広範囲の領域を示しているため、加盟国の範囲も今ひとつ明確ではありません。また、目的および役割についても、それまで順調に進んできたASEANの上に網をかぶせたような形であり、ASEANの統合を遅らせたように見え、APECの役割と性格、領域のフォーカスが不明確な点があります。このセミナーの目的のひとつは、インド、日本とAPECの関係を通じて、APECそのものの役割を解明することです。</p>			
--	--	--	--

【A-7】防災のグローバルな取り組み - 地球温暖化、自然災害へ官民協力	300名程度	主催：明治学院大学	当日受付
11月8日(月) 13:25-14:55	会場：明治学院大学横浜キャンパス(横浜市戸塚区上倉田町1518)		教養教育センター附属研究所 (電話)045-863-2067

タイトルが一部変更になり、パネリスト及びパネル報告のテーマが決定し、合わせて講座概要が更新されています。詳細は「よこはま大学開港塾2010」ホームページ(更新情報)で御確認ください。

【A-8】国際交流と大学―元留学生の話聞いて考える―	350名	主催：関東学院大学	当日受付
10月28日(木) 14:40-16:10	会場：関東学院大学 金沢八景キャンパス(横浜市金沢区六浦東1-50-1)		学長事務室 (電話)045-786-7005

<p><講演>丁 敏(中国社会科学院日本研究所)／範 建亭(上海財経大学准教授)</p> <p>鉄鋼生産5億トン、輸出世界一、万博で注目中国は、輸出先と人的交流でアメリカを超えました。対米関係を基軸としてきた戦後日本の対外関係は、見直しを迫られています。対中関係をどうすべきか。中国の第一線で活躍している元留学生二人の話聞いて考えます。</p>			
--	--	--	--

【A-9】アジアの観光ビッパン	150名	主催：横浜商科大学	当日受付
10月30日(土) 13:00-16:00	会場：横浜商科大学つるみキャンパス(横浜市鶴見区東寺尾4-11-1)		総務部 (電話)045-583-9056

<講演>未定(詳細は後日よこはま大学開港塾HPにてお知らせします。)

【A-10】中国経済への入門	50名	主催：SBI大学院大学	事前申込(電話・Email) 空き状況により当日受付可
11月6日(土) 14:00-15:30	会場：SBI大学院大学(横浜市中区太田町2-23 横浜メディア・ビジネスセンター6F)		エクステンションセンター(電話)045-342-4605 (Email) exc@sbi-u.ac.jp

<講演> 野間 修(SBI大学院大学教授)

高度経済成長を続けてきた中国は世界同時不況の影響からもういち早く立ち直り、本年中には我が国を抜いて世界第2位の経済大国に躍進することが確実視されています。本講座ではAPECの最重要パートナーの一国でもある中国の経済に関する入門編として、その大躍進の理由や今後の見通し、抱えるリスクの数々、人民元の対ドルレートの問題など、中国経済を様々な角度から学ぶとともに、中国の更なる経済発展が私たちの将来をどう左右するかについてもヒントを掴んでいただきます。

【A-11】多文化共生を語る―ケベックから見た日本・日本から見たケベック―(「カリタス学園創立50周年記念 多文化共生を語る―国境を越えた視点から」)	100名	主催：カリタス女子短期大学	事前申込(電話・Email・FAX) 空き状況により当日受付可
11月20日(土) 13:30-15:30	会場：カリタス女子短期大学(横浜市青葉区あざみ野2-29-1)		(電話)045-901-5133 (Email) caritas@caritas.ac.jp (FAX) 045-901-5066

<シンポジウム>『日本からみたケベック』竹中 豊(カリタス女子短期大学教授)／『ケベックからみた日本』 クローデット・ベルニエ(カリタス学園理事長)／『アイデンティティと共生のあいだ』 立花 英裕(早稲田大学教授)

多文化共生とは、異なる民族・文化・価値をもった人たちが「違いを認め合いながら、共に支えあって生きること」を指します。日本は今、そうした社会環境への変化を模索しているように思えます。では、異質な文化価値の出会いに過去、人はどう対応してきたのでしょうか。あるいは現在・将来にわたって、どう"共生"したらよいのでしょうか。(全7回のカリタス市民講座の最終回となる当シンポジウムは、「よこはま大学開港塾」として無料で開催します。シンポジウム終了後講師を囲んでの茶話会(無料)を行いますので、お時間のある方はご参加ください。)

【A-12】超大国アメリカの「内なるグローバル化」と連邦・州・自治体による財政的防衛―APECをうけて―	130名	主催：八洲学園大学	事前申込(電話・Email・FAX) 空き状況により当日受付可
11月23日(火・祝) 14:00-16:00	会場：横浜市中心図書館 地下ホール		エクステンションセンター事務局(電話)045-317-4401 (Email) u-yue@yashima.ac.jp (FAX) 045-324-6961

<講演>堀 武郎(八洲学園大学専任講師)

超大国アメリカは、グローバル化の発信国であり、受容国でもあります。つまり、「内なるグローバル化」がアメリカ経済を支配しており、その「内なるグローバル化」に伴うリスクやダメージを緩和する財政メカニズムが、政府に存在します。この講座では、アメリカの「内なるグローバル化」の現状と、それに対応する州や自治体の機能について学びます。

【A-13】環太平洋の海洋問題	200名	主催：横浜国立大学	事前申込(Web) 空き状況により当日受付可
11月29日(月) 13:30-17:30	会場：横浜市開港記念会館		統合的海洋教育・研究センター (web)http://www.cosie.ynu.ac.jp/ (電話)045-339-3067 (Email) kaiyo@ynu.ac.jp

<講演終了後に講師他を交えてパネルディスカッションを行います>

『スパコン地球シミュレータで細解く地球環境の変化と変動』高橋 桂子(独立行政法人海洋研究開発機構地球シミュレータセンター・プログラムディレクター)

さまざまな分野で大きな役割を果たしているスーパーコンピュータ。将来の地球の環境はどうなるのか、その変化が私たちの身の回りの環境にどのような影響を与えるのか。環境の変化を私たちはどう受け止め、どのように向かい合う必要があるのでしょうか。シミュレーション予測の最先端を美しい画像でご紹介するとともに、皆様とご一緒に考えてみたいと思います。

『地球温暖化は海洋生態系にどのような影響を与えるか?』中田 薫(独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所海洋生産部長)

今年10月、名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(CoP10)が開かれます。気候変動による温暖化と海の酸性化と生物との関係、南方種の侵入や分布の拡大による生態系の攪乱など、温暖化に伴うさまざまな生物多様性の危機の現状とそれらに対する取り組みを俯瞰します。

『船舶のプラスチック水管理問題に対する新しい解決法の提案』荒井 誠(横浜国立大学大学院工学研究院教授)

船舶のプラスチックに混入した海洋生物が、本来の棲息地を離れて世界規模で拡散し、海洋環境を破壊する問題が生じています。この問題を、複雑な減菌処理装置や追加の動力を必要とせず、省エネで解決する画期的な方法を提案します。

B：超高齢社会の終末期医療・介護を考える!

【B-1】家族介護を考える	130名	主催：横浜市立大学	事前申込(電話) 空き状況により当日受付可
11月20日(土) 9:50-11:10 (9:30開館・受付開始)	会場：横浜市中心図書館 地下ホール		エクステンションセンター (電話)045-787-8930

<講演>河原 智江(横浜国立大学医学部看護学科学准教授)

家族介護の現状を踏まえ、介護されるご家族も介護を受けるご本人も楽しく生活できる介護のあり方をみなさんと一緒に考えたいと思います。

【B-2】口腔からはじめる抗加齢医学「不老は口から―アンチエイジング医学の最前線―」	130名	主催：鶴見大学	当日受付(9:30より受付開始)
11月20日(土) 11:25-12:55	会場：横浜市中心図書館 地下ホール		総務課 (電話)045-574-8608

<講演>斎藤 一郎(鶴見大学歯学部附属病院長・鶴見大学歯学部教授)

抗加齢医学は「老化を遅らせて、病気になるず、いつまでも若々しく生きる」という誰でも望むことを医学的に検証し、実践する最新の医学です。口のトラブルで老化を自覚する方が多く、歯科医療は抗加齢医学の最前線にいます。本講座は「口の若さを保ち、体全体の若さを保とう」という新しい提案です。

【B-3】a 健康長寿と安らかな終末を支えるための薬学の使命と課題	130名	【B-3】a 主催：横浜薬科大学 【B-3】b 主催：昭和大学	事前申込(はがき・電話・Email) 空き状況により当日受付可
11月20日(土) 13:35-15:05	会場：横浜市中心図書館 地下ホール		

<講演>大塚 邦子(横浜薬科大学薬学部准教授)

誰もが寝たきりにならず、痛みの中で苦しまず、健康長寿を過ごし、癒されて安らかな終末を迎えたいと願っています。現在の医療保険および介護保険制度の中で薬剤師ができる患者さんとその家族を支援するさまざまな仕事とそれらに関する薬学教育および「お薬を飲み続けることの重要性」に関してお話ししたいと思います。

【B-3】b 緩和ケアの本質とは～死から生といのちを考える～	130名		
11月20日(土) 15:20-16:50	会場：横浜市中心図書館 地下ホール		

<講演>高宮 有介(昭和大学医学部医学教育推進室講師)

がん患者さんの心身の痛みを癒すのが緩和ケアです。人は死を意識した時生きてきた意味や役割を振り返り、残された時間を誰とどのように過ごすかを考え始めます。患者さんの言葉や手紙、日記をもとにお話しします。

C：地域コミュニティの再生を考える!

【C-1】まちなかアートによるフィールドワークのデザイン―大学周辺のグルメスポット・コミュニティを構築するアートイベント「おしょくじプロジェクト」の提案―	120名	主催：東京都市大学	当日受付
9月11日(土) 15:30-17:00	会場：東京都市大学 横浜キャンパス (FEISホール)(横浜市都筑区牛久保西3-3-1)		横浜事務室総務課(電話)045-910-0104 (Email) ycoffice@tcu.ac.jp

<ワークショップ>岡部 大介(東京都市大学環境情報学部講師)

本学部が立地する都筑区には、子どもと高齢者の交流を深めたい、地域と積極的に関わりたいという人が大勢います。一方で、新しく移り住んで来る人も増えており、街に住む人同士がお互いに顔の見える関係を築くための「きっかけ」が必要とされています。その「きっかけ」づくりのひとつとして、地域の飲食店を巻き込んだアートイベント「おしょくじプロジェクト」を提案致します。

【C-2】健康を核とした地域コミュニティの再生	200名	主催：横浜国立大学	当日受付
12月11日(土) 13:00-15:00	会場：横浜国立大学 附属図書館メディアホール(横浜市保土ヶ谷区常盤台79-6)		地域連携推進室 (電話)045-339-4443

<パネルディスカッション>渡嘉敷 眞哲(横浜市保土ヶ谷区福祉保健センター長)／笠野 智恵(横浜国立大学附属鎌倉小学校養護教諭)／海老原 修(横浜国立大学教育人間科学部教授)／(司会) 中村 栄子(横浜国立大学教育人間科学部教授)

家族や地域社会が担ったセーフティネット機能が急速に脆弱化する中で、課題の発見と解決に取り組む「地域の挑戦」も目立ってきました。様々な必要性や欲求を満たす生活をおくるために、地域住民、行政、大学には、今いかなる行動が求められるのか。自助努力とセーフティネットがカバーし得る「健康」を手がかりに、地域コミュニティの再生の可能性を検討したい。